

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2007.JULY vol.2



CONTENTS

2・3 特別展示紹介（「輝きふたたび 石見銀山展」）

4・5 展示室あれこれ／イベントニュース／博物館トピックス／ボランティア通信

6・7 学芸員通信／古代出雲歴史博周辺今昔／新刊案内

8 博物館行事／イベント案内

祝 世界遺産登録 石見銀山遺跡



大久保間歩
銀山奉行、大久保長安の名をとって命名。
石見銀山の間歩の中で最大の規模を誇ります。(未公開)

世界遺産登録記念

「輝きふたたび 石見銀山展」

期間：平成19年7月14日(土)～9月24日(月)

世界遺産登録記念 「輝き ふたたび 石見銀山展」

IWAMI-GINZAN SILVER MINE

大航海時代、世界に知られた石見銀山の全貌を一挙公開 展示総数 約300点

出雲会場 島根県立古代出雲歴史博物館

A プロローグ

—東方見聞録の「黄金の国」に惹かれて来てみれば「銀の国」だった—

石見銀山は、16世紀半ば過ぎには、大航海時代まっただなかのヨーロッパにまで知られ、銀の国「日本」を代表する銀鉱山でした。この時代に、ヨーロッパで印刷された東アジア地図や日本地図には、石見銀山が記されています。



ティセラ/日本図 島根県立古代歴史博物館所蔵

B 銀山発見と東アジア

石見銀山は1526年、他にさきがけて開発され、1533年には、灰吹き法という精錬技術を導入して飛躍的に銀を増産しました。1542年には、「日本国王」の使者と称する者が一度に1.3 tもの銀をもたらし、時の朝鮮王朝を驚かせました。



紙本金地著色南蛮屏風 堺市博物館所蔵 重要美術品

C 大航海時代

—ヨーロッパに姿を現した荘厳な銀空間—

石見銀山が開発された16世紀の前半は、スペイン人がアメリカ大陸へ進出する一方、ポルトガル人がアフリカ南端を経由してインドから東アジアへ到達した時代です。この時代、ポルトガルでは、「銀」を、さまざまな「銀器」に加工して用いました。



船形香入 ポルトガル国立古美術館所蔵

D 石見銀山と戦国日本

戦国時代、石見銀山の莫大な銀をねらい、各地の大名たちが激しく争いました。石見銀山の支配者は、1551年に周防国の大内義隆が滅亡した後、出雲国の尼子晴久へと移ります。1562年、安芸国の毛利元就が尼子氏方に勝ち、石見銀山を領有しました。



紙本着色毛利元就画像 毛利博物館所蔵 重要文化財

E 天下統一と金銀

織田信長から豊臣秀吉・徳川家康に至る天下統一事業は、鉱山や交通・経済の要所を支配し、銀を用いて進められました。



大久保長安木像 佐渡市大安寺所蔵

F エピローグ

—最盛期の石見銀山—

1526年の本格的な開発から1923年の休山に至るまで、およそ400年間に及ぶ歴史。その中で史上最も光輝いていたのは、やはり16世紀から17世紀初頭にかけてです。この時代を象徴的に物語る歴史資料〈石見国絵図〉を展観します。



辻が花染丁子文道服 清水寺所蔵 重要文化財

関連イベント

特別講座

「大航海時代のポルトガルと世界遺産」

日時：7月14日(土) 10:00-12:00

講師：大阪外国語大学教授 林田雅至氏
ポルトガル関係者(予定)

会場：古代出雲歴史博物館 講義室

定員：100名(要事前申込)

聴講無料

特別講座

「石見銀山遺跡の価値」

日時：7月21日(土) 10:30-12:00

講師：石見銀山資料館館長 仲野義文氏
会場：古代出雲歴史博物館 講義室

定員：100名(要事前申込)

聴講無料

コンペイトウをつくろう

日時：7月28日(土)・29日(日)
10:00-16:00

会場：古代出雲歴史博物館
講義室・体験工房

定員：当日随時受付

材料費：500円

申し込み方法

講座への申し込みは講座名・住所・氏名・電話番号をご記入のうえ次のいずれかの方法でお申し込みください。

〔往復はがき〕〒699-0701

島根県出雲市大社町杵築東99-4

島根県立古代出雲歴史博物館石見銀山展担当あて

〔ファクシミリ〕0853-53-5350

〔電子メール〕ホームページhttp://www.izm.ed.jp/の申し込みフォームをご利用ください。

*会期中は石見銀山遺跡でもさまざまなイベントを予定しています。詳細についてはホームページ等でご確認ください。

期 間：平成19年7月14日(土)－9月24日(月)

会 場：出雲会場 古代出雲歴史博物館（島根県出雲市大社町杵築東99-4）

大田会場 石見銀山資料館（島根県大田市大森ハ51-1）

【2館同時開催】

主 催：島根県、大田市、島根県立古代出雲歴史博物館、石見銀山資料館、ミュージアムいちばた、NHK松江放送局、山陰中央テレビ、山陰中央新報社、(財)自治総合センター
後 援：外務省、文化庁、ポルトガル大使館、社団法人日本ユネスコ協会連盟、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、BSS山陰放送、日本海テレビ、テレビ朝日松江支局、エフエム山陰、島根県ケーブルテレビ協議会
特別協賛：岩谷産業株式会社、DOWAホールディングス株式会社、中村プレイス株式会社

大田会場 石見銀山資料館

A プロローグ

—語り継がれた石見銀山の歴史—
銀山旧記をつづじて、江戸時代の石見銀山の様子を紹介します。



銀山旧記集

B 奪い合う石見銀山

県指定文化財に新たに指定された「多胡辰敬肖像」(後期展示)をはじめ、歴代の支配者たちの資料を展示します。



大久保長安寄進能面

C 「やま」の社会と暮らし

石見銀山の発掘が進むにつれ、過酷な労働と引き換えに、豊かな暮らしも行われていたことがわかりました。



石見銀山遺跡出土陶磁器

D 銀山の経営と技術

銀山の歴史は、多くの鉱夫たちをはじめ、銀山領内の様々な人々の辛苦によってつづられています。



銀山稼方絵巻

E 銀流通の道と港

初期には銀の積出港として栄えた鞆ヶ浦、後には北前船の寄港地、湯治場としてにぎわった温泉津の資料を紹介します。



温泉津村絵巻

F エピローグ

—過去そして未来へ—

石見銀山遺跡とその文化的景観は、地元の人々の努力で守り伝えられてきました。そして未来へと。



大森町の山並み

島根県立古代出雲歴史博物館

開館時間：9:00-18:00

休館日：7月17日(火)、8月21日(火)、9月18日(火)

観覧料

【古代出雲歴史博物館】

◎一般/1,000円(800円) ◎大学生/500円(400円)
◎小・中・高生/300円(240円)

【石見銀山資料館】

◎一般・大学生/500円(400円) ◎小・中・高生/300円(200円)

【両館共通】※期間中有効

◎一般/1,350円(1,100円) [前売券1,000円] ◎大学生/900円(700円)
◎小・中・高生/500円(400円)

※()内は20名以上の団体料金

※小・中・高生の学校教育活動での観覧は入場無料

※障害者手帳をお持ちの方、及びその付添人は無料

※前売り券は、主要プレイガイドにてお求めください。

※なお、古代出雲歴史博物館の常設展示は、別途料金が必要となります。

石見銀山資料館

開館時間：9:00-17:00

休館日：なし

交通案内

古代出雲歴史博物館

◎JR出雲市駅から一畑バス(出雲大社・日御碕線「正門前」下車)で約25分
同上(出雲大社行[中央病院経由]「古代出雲歴史博物館前」下車)で約35分
◎出雲空港から空港連絡バス(出雲大社行「出雲大社」下車)で約35分
◎山陰道穴道IC～車で約40分

石見銀山資料館

◎JR大田市駅から石見交通バス(大森・大家線、川本線「大森代官所跡」下車)で約25分
◎出雲空港から空港連絡バス(JR出雲市駅行)、JR特急(山陰本線下り「JR大田市駅」下車)、石見交通バス乗り継ぎで約1時間30分
◎京阪神方面から 米子自動車道經由山陰道穴道IC～車で約1時間20分
九州・四国・広島から 浜田自動車道經由山陰道江津IC～車で約40分
広島新幹線口から 石見交通バス(大田広島線「大森代官所跡」下車)で約2時間35分
※現地では、「石見銀山方式パーク＆ライド」の交通規制を実施中です。

2会場を結ぶ便利なシャトルバスを運行します。(有料)

神仏習合

テーマ別展示「出雲大社と神々の国のまつり」の最終章「神々へのささげもの」では、1～3か月ごとに展示品を入れ替えます。6月20日から9月17日までは「神仏習合」をテーマに展示します。

鎌倉時代、須佐神社（出雲市佐田町）に奉納された仏教経典〈大般若経〉（出雲市高野寺所蔵）、神と仏は一体のものだとみなす考え方から生まれた懸仏の優品（出雲市法王寺所蔵）、戦国時代、平浜八幡宮への奉納を企図した仏教儀式の道具一式（松江市迎接寺所蔵）など、神と仏の密接な関係を物語る品々をご覧ください。

国指定重要文化財4点、島根県指定文化財4点。



重要文化財 観音菩薩懸仏 法王寺所蔵

[イベントニュース]

開館記念特別雅楽公演 「春日大社の管絃と舞楽」

好天の中、約1500名がご来場！！



去る4月15日、古代出雲歴史博物館庭園（風土記の庭）の仮設舞台において、開館記念特別展「神々の至宝」にちなみ、春日大社（奈良市）伝来の雅楽公演を開催しました。

出演は、社団法人南都楽所の皆様。南都楽所は、春日大社を拠点に、千年を超える雅楽の歴史と伝統を現在に継承する我が国を代表する雅楽団体です。

この日は、好天に恵まれ、延べ1500人もの大勢の方々にお越しいただき、越天楽、春庭花、蘭陵王など計6曲をご鑑賞いただきました。

春うららかな陽射しの中、しばし時を忘れて、いにしへの歌舞音曲に酔いしれました。

古来、天と地と人と風と…美しい自然の中で、神々に繰り返し捧げられてきたであろう雅なるもう一つの神宝「雅楽」。そこに込められた「祈りのところと美のかたち」を体感しえた至上のひとつときでした。



入館者数は、順調に推移～開館百日を経過。

3月10日の開館以来、多数の皆様のご来館をいただき、4月5日には5万人目、5月2日には10万人目のお客様をお迎えすることができました。そして開館特別展の会期最終日である5月20日には15万人となり、7月3日現在で197,160人、20万人の大台が目前となっています。開館百日をすぎてその推移をみますと「開館特別展～神々の至宝～」が、大きな牽引役となり、会期70日間で初年度目標30万人の半分以上を超えたこととなります。

『ミュージアムパスポート』が好評！会員数1万3千人に。

一年間何回でも観られる年間観覧券「ミュージアムパスポート」の会員が、5月4日には年間目標の倍の1万人となり、その後も増え続け、1万3千人を超えました。県内はもとより、近隣の鳥取・広島県をはじめ、東京・大阪などの方にも多数購入いただいています。県内では、出雲市・松江市の構成比率が際立つものの、県内各地域にわたりまんべんなく会員となっていていただき、関心の高さがうかがわれます。

展示の充実ぶり示す 来館者のみなさんの声

5月に実施した館内アンケートによりますと、観覧後の感想として「大変良かった」「良かった」という方が8割を超えており、その理由として挙げられているのが「展示の充実度」(34.0%)、「展示方法」(14.4%)などで、高い評価をいただいています。また、「また来たい」・「何回も来たい」という方を合わせると7割を超えており、「見応えがある」「一度で見切れない」という声を裏づけるものとなっています。一方で、改善すべきところは真摯にうけとめ、いつでも・なんども楽しめる古代出雲歴史博へ、一層の充実が求められています。



[ボランティア通信]

ボランティアをしてみませんか！

ただ今、84名の皆さんに、ボランティアとして、来館者への展示解説などを行っていただいています。

この度、追加募集を行いますので、博物館や歴史が好きで、来館者とのふれあいを大切にしたいという方は、ぜひご応募ください。



【対象】

満18歳以上で、次のような活動をご希望の方

- ・展示の解説
- ・展示の外国語による通訳
- ・体験学習やイベントなどのサポート活動

【応募期限】

平成19年8月31日(金)

※応募後、事前研修を受講していただき、その後に正式登録していただきます。

【応募先・問い合わせ】

古代出雲歴史博物館ボランティア担当
TEL 0853-53-8600

花のボランティア

大社小学校の児童たちによる、古代出雲歴史博物館に生け花を飾る活動が行われました。

古代出雲歴史博物館のボランティアスタッフの一員で、出雲市立大社小学校(松本俊憲校長)においてもクラブ活動等で外部講師をしてられる地域の活動家・大國桂子さんが橋渡し役となり、実現しました。



出雲市立大社小学校の5、6年生の児童たちが、古代出雲歴史博物館を訪れ、大國さんをはじめとする“光輪

花クラブ”のみなさん(計3名)の指導の下でお花を生け、でき上がった生け花を館内の受付やトイレ等に飾っていただきました。



古代出雲歴博本「出雲風土記抄」

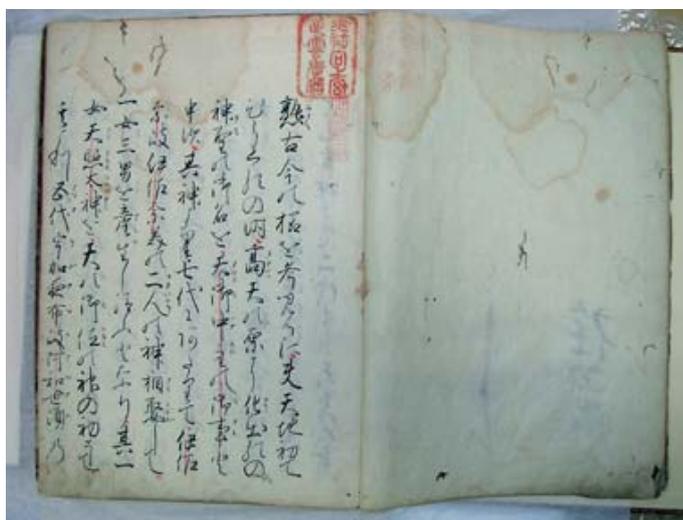
専門学芸員 岡 宏三

古代出雲歴史博物館では、このほど最古の「出雲風土記抄」の写本を入手し、展示公開しています（8月20日まで）。これは、松江藩の郡奉行、岸崎左久次（?～1690）による最古の「出雲国風土記」の注釈書で、風土記に記された郷（村）や、神社が今のどの地域、どこの神社にあたるのか細かく調べてあります。近代以降の土地開発、地名改変などにより、多くの手がかりを失った現在、岸崎が調べ上げた情報は大変貴重な情報源です。しかし、「出雲風土記抄」は刊行されず、原本は失われ、手で書き写した「写本」ばかりが伝来し、写本によって字句の食い違いがたくさんありました。

岸崎が「出雲風土記抄」をまとめ上げたのは、序文から考えて天和3年（1683）5月頃。同年10月、彼は、松林寺（出雲市大社町）の住職、宏雄に「出雲風土記抄」の校閲を依頼しました。宏雄が校閲にあっていたところ、宏雄の兄の息子・北島伝之丞がこれをほしがりました。そこで彼は写本を作成し、同年12月1日、伝之丞に渡しました。

今回の写本には「此主、伝之丞豊忠」と持主の奥書があり、宏雄が伝之丞に与えた写本だということが判明しました。また向孝始をはじめ、北島国造家に附属した神職たちの蔵書印もあり、後に伝之丞から彼らの手に渡り、広く参考にしようです。

古代出雲歴博本「出雲風土記抄」は、現在確認されている写本の中で最も由来のはっきりとした、原本に近い優れた写本です。今後は、島根県古代文化センターとともに、内外の研究者・研究機関と連携しながら調査研究を行っていく予定です。



出雲風土記抄

こ だい いすも れきはく まわりのいまむかし [古代出雲歴博周辺今昔]

勢溜の金輪の松



杵築大社近郷絵図

古代出雲歴博の正面ゲートを出て右へ、坂を上ると大鳥居や大灯籠のある広場「^{せいだまり}勢溜」に出ます。この名は「大勢の参詣者が溜まる、ということから来ているようです。

昔、このあたりは松林で、勢溜は寛文7年（1667）の正遷宮にあたって境内の拡張工事が行われたとき、催しのための広場として整備されたと伝えられています。

当時生えていた黒松が数本、巨木となって明治の末まで残っており、倒れないよう鉄の輪で補強されていたことから「^{かなわ}金輪の松」と呼んで親しまれていました。遠くからもよく見えて大社参拝の道しるべとなっていました。大正5年に最後の1本が落雷によって枯れ、今は跡形もありません。

（ふるさと案内人 馬庭孝司）



しまねの古代文化 第14号
講演会・シンポジウム記録集

第22回古代文化講座「近世のたたら製鉄ー江津
佃谷たたらと倭國一博士ー」
第6回神在月古代文化シンポジウム「出雲、神在
月の謎に迫るーなぜ、神々は出雲に集うのかー」
本体価格700円(送料210円) <A5判, 118P>



古代文化研究 第15号
島根県古代文化センター研究紀要

(目次より)
青銅器模倣品出土地集成
島根県内玉作遺跡より出土する紅簾石片岩製内磨砥石の石材産出地の検討
『出雲大社并神郷図』に用いられた顔料について
石西地域の二つの中世大般若経について
出雲の狛犬について (3)
「入江文郎の二枚紙の在仏留学生名簿」についての考察
史料紹介「長征石見戦争聞書」
天保五年当時の華岡家「春林軒」における医学修業の実態について(一)
資料調査 出雲国風土記写本の調査 (四)
『倭名類聚抄』所載「神稻(代)郷」についての一考察 (一)
古代祭祀空間関係史料集成 (二)
天平年間成立当初の『出雲国風土記について』
本体価格2200円(送料340円) <A4判, 290P>



順庵原1号墓の研究

昭和43年に全国で初めて確認された四隅突出
型墳丘墓〈順庵原1号墓〉の未報告資料及び調査
所見を再整理。完全な資料化を目指した。順庵原
1号墓は邑智郡邑南町(旧瑞穂町)に所在。
本体価格1000円(送料290円) <A4判, 89P>

【購入のお申込み】

郵便振替 01440-5-4431 島根県文化財愛護協会

※原則として前金制です。本体価格と送料をあわせて上記の口座にご入金いただきましたら本を発送します。
※振替用紙の通信欄に、書籍名と冊数をご記入ください。

〈お問い合わせ〉 島根県文化財愛護協会(島根県教育庁文化財課内) ☎0852-22-5879

歴博イベントカレンダー

7 文月～July

- 14日 大航海時代のポルトガルと世界遺産
- 21日 石見銀山遺跡の価値
- 21日 古代出雲れきはく探検クイズラリー (8月31日まで毎日開催)
- 28日 コンペイトウをつくろう
- 28日 トワイライト・ミュージアム

8 葉月～August

- 4日 夏休み体験楽 古代グッズ手作り体験
- 4日 トワイライト・ミュージアム
- 11日 夏休み体験楽 古代グッズ手づくり体験
- 11日 トワイライト・ミュージアム
- 15日 ご縁まつりトワイライトミュージアム
- 18日 トワイライト・ミュージアム
- 18日 夏休み体験楽 古代グッズ手づくり体験
- 25日 夏休み体験楽 古代グッズ手づくり体験
- 25日 トワイライト・ミュージアム

9 長月～September

- 8日 日本人とカステラ
- 22日 タバコとワイン

※夏休みの土曜日「トワイライト・ミュージアム」を開催 (7月21日・28日・8月4日・11日・18日・25日)

特別講座 体験講座 イベント
お問い合わせ：古代出雲歴史博物館 TEL0853-53-8600

企画展のご案内

7月	世界遺産登録記念一輝きふたたび
8月	石見銀山展
9月	平成19年7月14日(土)～9月24日(月)
10月	
11月	弥生王墓誕生
12月	～山陰に王が出現した時～
平成20年	
1月	特集展「出雲地方の正月行事」
2月	平成19年12月25日(火)～平成20年1月14日(月)
3月	特集展「島根・鳥取発掘速報展」
4月	平成20年1月18日(金)～2月18日(月)
5月	甦る幻の染色(仮)
6月	～出雲藍板締め～
	平成20年3月7日(金)～5月18日(日)

特集展は常設展チケットでご覧いただけます

夏休み“はくぶつかん探検楽” 「古代出雲れきはく探検クイズラリー」

開催期間：平成19年7月21日(土)～8月31日(金)
9：00～18：00

博物館の展示ゾーンや風土記庭園をつかってクイズを解きながら楽しくふるさと島根を学ぶクイズラリーを開催します。

参加特典：クイズラリーに参加する小学生のみなさんは、期間中、常設展観覧料は無料です。また、全問正解者には記念グッズを贈呈します。

夏休み“はくぶつかん体験楽” 「古代グッズ手作り体験工房」

開催日時：平成19年8月4日(土)・11日(土)・18日(土)・25日(土)
いずれも14：00～16：00

開催場所：島根県出雲市大社町杵築東99-4
島根県立古代出雲歴史博物館 体験工房

体験内容：“勾玉”の制作体験をします。

制作費：300円(材料費)

申し込み：事前に希望する日時を指定して予約をお願いします。定員各25名で、定員になり次第締め切らせていただきます。(電話・ファックス・メール・博物館での直接申し込みなど)

夏休み トワイライト・ミュージアム 毎週土曜日

古代出雲歴史博には、昼間とは異なるもうひとつの素適な表情があります。やさしい灯りにうかぶエントランスホールやファンタジックに照らし出される夏の風土記庭園を気軽に散策してみませんか。

名づけて、『トワイライト・ミュージアム～博物館のライトアップ&古代出雲のそぞろあるき』。…古代出雲歴史博のもうひとつの楽しみでもあります。

開催日時：平成19年7月21日(土)・28日(土)・8月4日(土)・11日(土)・15日(水・お盆)・18日(土)・25日(土)
18：00～20：00

開催場所：島根県出雲市大社町杵築東99-4
島根県立古代出雲歴史博物館エントランスホール／カフェ及び風土記庭園
(※ただし18：00以降は、展示室内には入れません。)

企画内容：美しい光に包まれた博物館のエントランスホールを中心に「土曜限定トワイライトカフェ」「風土記庭園そぞろあるき」をお楽しみください。「トワイライトミュージアム写真コンテスト」も実施します。あわせて、いつもとちがう博物館イベントも企画中です。夏休み・毎週土曜日の夕刻は、博物館へおでかけください！

トワイライト フォトコンテスト&展示会開催！

「博物館のライトアップ」で撮影した写真をお送り下さい。
応募方法：A4サイズ以上の写真を郵送もしくは直接博物館情報交流室にお持ち下さい。締め切りは8月31日。
詳しくは当館ホームページ(<http://www.izm.ed.jp>)をご覧ください。
お問い合わせ：☎0853-53-8600 フォトコンテスト担当まで



発行／平成19年7月

島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL：<http://www.izm.ed.jp>
E-mail：contact@izm.ed.jp



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん